

E
エッセイ
Essay.

すばらしい日本の教育

自治体職員協力交流研修員
ゴンサルベス・マリア・ホザ

私はブラジル・パラナヴァイ市の学校で長年教師として勤めています。豊橋市とパラナヴァイ市は教育提携を結んでおり、日本の教育に興味があった私は、昨年6月から11月までの半年間、日本の教育事情の情報収集と公立小学校で研修などを行う教育プログラムに申込み日本にきました。

私は日本語が得意ではないため、日本の公立小学校の国際学級の子も達との交流と学習サポートをメインに活動しました。豊橋の小学校に通うブラジル人の子も達の現状を近くで見ていて、ブラジルから日本に来る子どもと、日本に住む子どもがブラジルに帰国するのは同じ状況だと思いました。新しい環境に慣れるのにはかなりの時間が必要で、時には心のケアが必要な場合もあります。

ブラジル人の子どもが日本の学校に早くなじむためには先生の協力と家族の支えが不可欠です。子ども達のために一生懸命頑張っている日本人の先生の姿を近くで見て、とても嬉しく思いました。その一方で、先生や家族がいくら頑張っても、日本の学校になじめない子どももいます。みんなの輪に入れず、友達と打ち解けられないため心配です。学校が自分の居場所と感じないために暴れたり、不登校になったり、自分の世界に閉じこもってゆきます。気がつくといとどんどん友達との距離が広がり、専門家に相談することも必要となります。それでも日本の義務教育には留年がないため、進級できてしまいます。

もう一点は、多くのブラジル人の子もたちがポルトガル語教室に通っていないことです。ポルトガル語と日本語を使い分けながら、どちらの言語も完璧に習得できないまま成長している気がします。将来、どちらの国で生活したとしても苦勞するのではないかと心配です。親とのコミュニケーションもうまくとれない家庭もあります。急に帰国しなければならなくなった場合に備えて、母国語を勉強することを勧めます。

また、日本の学校に通う子ども達の親のためのオリエンテーションも必要です。日本の教育制度を理解し、ルールを守ってもらわないといけません。例えば宿題の手伝いはできなくても、子どもがやったかどうかの確認や、無

断で休まない、休む時は必ず学校に連絡する、授業参観日に出席することなどです。日本の学校は外国籍の子どもを受け入れる体制が整っていて、バイリンガルの相談員もいますし授業料が支払えない家庭には就学援助もあります。だからこそ、親も責任を持って自分の子どもをしっかり支えてほしいと思います。

日本の教育法はとても素晴らしく、これ以上はないと感じます。子供が必要な物は全て整っているの、日本の教育を受ければ、立派な社会人になれるでしょう。

私はブラジル人児童・生徒の保護者の皆さんにメッセージを送りたいと思います。それは、日本の学校はあなたの子どもの人間形成の重要な基礎を培っていることを実感してほしいということです。日本にいても帰国しても関係なく、教育は子どもの将来に大きく影響するからです。だからこそ一生懸命サポートしてあげてください。日本の素晴らしい教育環境でたくさん学んで立派な社会人になってほしいと思います。

私はこの研修で、日本語の学習や日本の文化体験、公立学校の皆さんとの交流や数々の出会いなど、様々な経験をさせていただきました。特に日本の文化は奥深く素晴らしく、体験できて嬉しく思いました。この研修は大変やりがいがあり、個人的にも教師としても、日々勉強になりました。研修で学んだ知識と経験は宝物です。日本で出会った方、ご協力いただいた皆様に心から感謝いたします。(ゴンサルベス・マリア・ホザさんは、昨年11月16日に研修を終えて帰国されました。)

